69回国民体育大会～長崎がんばらんば国体～総合開会式』（総合・10.12），『第14回全国障害者スポーツ大会～長崎がんばらんば大会～開会式』（Eテレ・11.1），『2014NHK杯フィギュア』（総合・11.28～30），『第70回びわ湖毎日マラソン』（総合・3.1）などに付与した。

特集番組では，『夜だけど…あさイチ』（総合・２本），『いじめをノックアウトスペシャル』（Eテレ・３本），『第65回全国植樹祭　にいがた2014』（総合・6.1），『平成26年　広島平和記念式典』（総合・8.6），『平成26年　長崎平和祈念式典』（総合・8.9），『第46回　思い出のメロディー』（総合・8.9），『第34回　全国豊かな海づくり大会やまと』（総合・11.16），『わが心の大阪メロディー』（総合・12.16），『第65回NHK紅白歌合戦』（総合・12.31），『NHKのど自慢チャンピオン大会2015』（総合・2.28），『桜満開！星は満天！記憶に残る“宇宙絶景”』（総合・3.28）などに付与した。

Ⅲ．その他の補完放送

このほかの補完放送には，音声多重を使った「ステレオ放送」「２か国語放送」「解説放送」がある。「解説放送」は主に視覚障害者のためのサービスである。

「２か国語放送」と「解説放送」は総合，Eテレ，BS1，BSプレミアムで実施した。

３節　国際放送

国際放送は，世界の人々の日本に対する理解を深め，国際的な文化・経済交流の発展を促し，ひいては国際親善と人類の福祉に貢献することを目的としている。

テレビ国際放送（NHKワールドTV）は，95年４月から，北米，欧州向けに開始した。98年４月からは，デジタル化によって，アジア・太平洋地域にも日本語，英語で１日18時間の放送を開始し，10月からは，ほぼ全世界向けに拡大した。

99年４月からは，１日の放送時間を19時間とし，10月からは24時間放送を開始した。

01年８月には，送信衛星を変更して，それまで受信できなかったアフリカ南部地域でも視聴が可能となり，世界中をカバーすることになった。08年10月に，外国人向け放送のNHKワールドTVは英語化率100％を達成した。また，邦人向け放送はNHKワールド・プレミアムチャンネルを活用して，国内放送のニュース・情報番組に加え，娯楽を供する番組など，より多彩な番組編成を実現し，ノンスクランブルでの新しい放送を開始した。

さらに，09年２月に番組改定を行い，英語ニュースを大幅に拡充し，国際放送局に新しく作ったニュース専用スタジオから24時間毎正時に編成するとともに，日本やアジアの情報を伝えるさまざまな番組についても，世界各地の好適視聴時間帯を強く意識した編成を実現した。09年４月より外国人向けテレビ国際放送の充実のために，新たに設立した日本国際放送（JIB）と連携して，日本の魅力を伝えた。インターネットでは，24時間動画配信を開始し，ニュースと国際放送局制作番組を放送と同時に配信している。

15年３月末現在，２億8,400万世帯が受信可能である（一部，時間視聴可能世帯を含む）。

NHKの短波によるラジオ国際放送は，1935年に「海外放送」として開始した。戦後に一時中断，52年に「ラジオ日本」として再開した。

日本語と英語で放送する「全世界向け放送」（ジェネラル・サービス，一般向け放送）と，地域ごとの言語で放送する「世界各地域向け放送」（リージョナル・サービス）と合わせて，07年度前半期までは22言語で，１日65時間放送していたが，海外発信が欧米を中心に短波放送からテレビにシフトしていくのに伴い，07年度後半期より，短波放送の送信地域と送信時間を見直した。「全世界向け放送」を廃止して，地域に応じた効率的な情

報発信を進め，ドイツ語，イタリア語など４言語を廃止し，18言語に縮小した。

一方，短波放送以外の新たな放送サービスとして，外国の放送事業者などが所有する送信施設を借用し，中波・FM波による放送サービスを拡充している。また，06年度後期より，衛星を使用したラジオ国際放送を行っている。

国際理解の促進を図るとともに放送番組を補完する観点から，インターネットにより国際放送のニュース等の提供も積極的に行っている。

放送番組の編成

国際放送番組の編成は，年度ごとに「編集の基本計画」で編成方針，重点事項など基本事項を定める。この基本計画に基づき「放送番組編成計画」を策定し，新番組の概要，編成時間などの具体的な計画事項や，放送番組時刻表を定めている。

国際放送番組審議会は，「基本計画」の諮問に対して答申するなど，放送番組の適正を図るため必要な事項を審議し，番組の編成や制作に役立てることを目的としている。

Ⅰ．国際放送の放送番組編集の基本計画

海外の視聴者からの投書，番組内容についてのモニターや短波の受信状況についての技術モニターの報告，各種の調査などを参考にしつつ，14年度の番組提案を基に14年度の番組編成を検討し，「平成26年度国際放送番組編集の基本計画」の原案を策定した。原案は13年12月中旬の国際放送番組審議会に諮問し，了承するとの答申を受け，14年１月中旬の経営委員会で議決承認された。

以下に原文どおり掲げる。年表示は西暦にし，記号などは本書の方式に合わせた。

１．編集の基本方針

NHKの国際放送「NHKワールド」は，14年度に，「国際発信力の強化」を掲げた経営計画の３年目を迎えます。

東日本大震災からの復興と再生が進む中，20年夏のオリンピック・パラリンピックの東京開催が決まり，日本に対する世界の関心が一段と強まっています。こうした期待や関心に応え，政治・安全保障・産業経済・社会など幅広い分野について，国際番組基準に従って迅速かつ客観的にニュースや番組を海外に伝え，日本への信頼を高めることがますます重要になっています。

英語によるテレビ国際放送「NHKワールドTV」は，これまでの編成を大幅に刷新し，視聴者の多様なニーズに応えます。ニュースでは日本の情報をさらに充実するとともに，アジアを中心とした世界の動きを，日本の観点を踏まえて的確に伝えます。番組では日本の伝統芸能や国際貢献など新たな分野を加え，番組数を増やします。

多言語によるラジオ国際放送「ラジオ日本」は，日本の最新情報や話題を日本語と17の言語で分かりやすく伝えます。また，地域の受信環境に応じた多様なサービスを展開するとともに，リスナーに身近な，きめ細かい放送サービスを推進します。

「NHKワールド」は，インターネットも積極的に活用し，ニュース・番組のPRを強化するなど，視聴機会の定着と拡大に努め，「日本およびアジアについて世界で最も信頼される情報源になること」を目指します。

２．編集の重点事項と各波の編集方針

（１）テレビジョン国際放送

○NHKワールドTV（英語・外国人向け放送）

・基本編成を４時間枠から６時間枠に拡大

これまでの番組編成を刷新し，編成の基本単位となる１ブロックを４時間から６時間へと拡大します。海外の視聴者の多様なニーズに応えるため，ジャンルを増やすとともに，NHKの豊富なアーカイブも活用して番組ラインナップを拡充します。

・ニュース発信の強化

ニュースは，国内での独自取材を増やすとともに，世界に広がるNHKの取材拠点と連携して，日本とアジアの情報発信を一層強めます。さらに，BS1の国際報道番組と連動し，中国や東南アジアに関するニュースや特集を拡充します。また，日本の深夜時間帯にニューヨークから経済情報を伝えるコーナーを新設します。

・新たな分野の開拓

数々のコンクールで国際的な評価が高まる「日本映画」や，ユネスコの無形文化遺産である「歌舞伎」など，これまで国際放送が困難だったこれらの番組も新たに加え，幅広い視聴者の期待に応えます。また，優れた技術や人材を生かした発展途上国支援の最前線を紹介し，国際社会に貢献する日本の姿を伝えます。

〔放送時間〕

世界全域…１日23時間以上が基本

〔放送番組の部門別編成比率〕

定時番組について，報道番組60％以上，インフ

ォメーション番組25％以上を編成します。

○NHKワールド・プレミアム（日本語・在外邦人向け放送）

・最新のニュース・情報番組

国内で放送するニュース・情報番組や海外の動きを伝えるニュース番組のほか，東日本大震災からの復興と再生への取り組みを伝える番組，各地の表情を伝える番組など，内外の最新情報を届けます。

・「安全」と「安心」を支える情報

海外で暮らす日本人や旅行者の重要なライフラインとして，内外で起きた大規模な地震，津波などの自然災害や，事件・事故などの緊急事態発生時には速やかにニュースを特設するなど，迅速・的確な情報の提供に努めます。

〔放送時間〕

世界全域に向けた同一の番組編成…１日およそ５時間

北米・欧州地域に向けた，現地の生活時間にあわせた番組編成…各１日およそ５時間

〔放送番組の部門別編成比率〕

定時番組について，報道番組80％以上，インフォメーション番組５％以上，娯楽番組を若干編成します。

（２）ラジオ国際放送

○NHKワールド・ラジオ日本

〔多言語・外国人向けサービス〕

・地域の特性に応じた多様な放送サービスの推進

日本の最新情報や話題を17の言語を通じて，現地の言葉で分かりやすく伝えます。地域の特性や受信環境に応じて，中波・FM波や衛星ラジオによる再送信，インターネットなども活用し，より身近な放送を目指します。

・ニュース・番組の充実

災害などの緊急時には機動的な編成に努め，最新のニュースを迅速・的確に伝えます。番組では幅広い情報を多角的に伝えるほか，リスナーとのつながりを深める企画に取り組むなど，一層の充実を図ります。

〔放送時間〕

17言語・合計…１日あたり34時間40分

短波24時間10分，中波・FM６時間15分（短波と重複する放送時間を除くと４時間45分），衛星ラジオ31時間40分（短波，中波・FMと重複する放送時間を除くと５時間45分）

〔放送番組の部門別編成比率〕

定時番組について，報道番組60％以上，インフォメーション番組25％以上を編成します。

〔日本語・在外邦人向けサービス〕

・最新のニュース・多彩な番組の提供

国内の主要ニュース，時事番組，スポーツ中継，音楽番組，ラジオドラマなどの番組を国内と同時に放送し，日本の多彩な情報を伝えます。

〔放送時間〕

日本語…１日あたり24時間

短波20時間，衛星ラジオ24時間（短波と重複する放送時間を除くと４時間）

〔放送番組の部門別編成比率〕

定時番組について，報道番組60％以上，インフォメーション番組25％以上，娯楽番組を若干編成します。

３．インターネット

○NHKワールド・オンライン

・インターネットを通した視聴機会の拡大

インターネットを通したテレビ視聴が広がっている世界の流れをとらえ，モバイル端末をはじめ，多様な機器を通して「NHKワールド」が世界各国の視聴者や日本を訪れる外国人旅行客に手軽に見てもらえるよう，アプリの改善・開発や配信手段の検証を進めます。また，英語ニュースのホームページ掲載期間を延長し，視聴機会の拡大につなげます。

・多言語展開の強化

11言語で提供しているテキストニュースに新たに３言語を加え，多言語情報サービスをより拡充します。また，「ラジオ日本」のニュース・番組と連動するホームページやライブストリーミング，オンデマンド提供など，多言語コンテンツの効果的な展開に引き続き努めます。

・ホームページの機能・利便性向上

PC，タブレット，スマートフォン，それぞれの端末に適したレイアウトで表示し，見たいコンテンツにすぐに到達できるようにするなど，ホームページの機能･利便性の向上を図ります。また，FacebookやTwitter等のSNSを活用して情報伝達ルートを広げ，ホームページへのアクセス増と「NHKワールド」の存在感を一層高めます。

Ⅱ．国際放送番組審議会

14年度は11回開催された。会長の諮問に応じて，「平成27年度国際放送番組編集の基本計画（案）」について審議し答申したほか，定時番組，特集番組などについても審議し放送番組の適正化を図った。

14年度の主な審議内容は次のとおり。

４月　NHKワールドTV『NEWSLINE』『NEWS LINE SPECIAL EDITION：PATH TO RECOVERY』『Music For Tomorrow』について
５月　NHKワールドTV『KABUKI KOOL』『Side by Side』について
６月　NHKワールドTV『Ceramic Treasures』『ART TIME-TRAVELLER』について
７月　「NHKの国際放送と番組審議会の役割について～放送法の観点から～」「NHKの国際放送は誰に向けて何を発信すべきか」について
９月　ＮＨＫワールドＴＶ『ＮＥＷＳＬＩＮＥ特番 REMEMBERING HIROSHIMA』について
10月　NHKワールド・ラジオ日本①『読み聞かせ文学館「旅する本」』②『被災地 祈りの芸能「第２回 伝統の踊りを心のふるさとに」「第３回 鎮魂と復興の願いを込めて」』③「やさしい日本語」第25課について
11月　「平成27年度国際放送番組編集の基本計画（案）」について
12月　「平成27年度国際放送番組編集の基本計画（案）」について（諮問・答申）
NHKワールドTV『High Speed, High Safety：The world-class technology of Shinkansen』について
１月　NHKワールドTV『NEWSLINE ①11月の日中首脳会談・APEC首脳会議，②地方局若手記者担当リポート選』について
２月　「平成27年度国際放送番組編成計画の主なポイントと新番組について」について
NHKワールドTV『Journeys in Japan』『Teach me Ninja Sensei!』『Meet and Speak』について
３月　NHKワールドTV『Trails to Tsukiji』について

番　組　制　作

Ⅰ．テレビジョン国際放送

（１）外国人向け放送

24時間毎正時の英語ニュース『NEWSLINE』は，日本国内の情勢を世界に伝えるのみならず，国際情勢についても多角的に報道した。東日本大震災からの復興，第47回衆議院議員総選挙，過激派組織IS・イスラミックステートによる日本人殺害事件，インドネシアの大統領選挙，韓国旅客船沈没事故等，国内外の重要ニュースについては，放送枠の拡大や特設によって機動的に伝えた。また，日本の深夜時間帯にニューヨークから経済情報を伝えるコーナーを新設するなど，海外の拠点からの発信を一層強化した。

定時番組では，国際放送独自制作の番組として，アジアの最新音楽シーンを紹介する『ASIA MUSIC NETWORK』，新世代の若手アーティストに密着する『RISING ARTIST』，日本美術の長い歴史を辿る『ART TIME-TRAVELLER』，外国人視聴者に分かりやすく歌舞伎の世界を紹介する『KABUKI KOOL』，日本映画の神髄を余さず伝える『J-FLICKS』，日本の国際支援の現場を紹介する『Side by Side』，日本の陶磁器の魅力を伝える『Ceramic Treasures』等を新設した。

また，英語化番組として，定点観測することで人間模様を映し出す『Document 72 Hours』（『ドキュメント72時間』）を新設するとともに，東日本大震災をテーマにした『NHKスペシャル』等の英語化放送にも継続して取り組んだ。

特集番組としては，毎週の『WORLD TV SELECTION』枠を中心に，自転車で日本各地を旅する『CYCLE AROUND JAPAN』，ボーダレス社会が抱える問題についてディスカッションする『Living Beyond Boundaries』，エジプト出身力士・大砂嵐の修練の日々に密着した『SUMO SPIRIT』，外国人ディレクターが独自の視点で日本の姿を描くシリーズ『Inside Lens』，気候変動問題を多角的に考察したシリーズ『Tackling Climate Change』等，多彩な番組を放送した。

（２）邦人向け放送

１日およそ５時間『NHKニュース　おはよう日本』『NHKニュース７』『ニュースウオッチ９』『クローズアップ現代』などの報道番組に加え，『NHKのど自慢』『バラエティー生活笑百科』などの娯楽番組を国内と同時に放送した。また，『国際報道2014』を新設した。

第47回衆議院議員総選挙の開票速報や，御嶽山噴火，過激派組織IS・イスラミックステートによる日本人殺害事件関連の特設ニュース等を，国内と同時放送し，海外で暮らす日本人や旅行者に迅速な情報を提供した。

◇在外邦人向け日本語放送の特集・特別番組

（T国際独自の注記がないものはすべてG同時）

4.1『ニュース』「STAP細胞論文で理化学研究所が再び会見」／4.2『ニュース』「チリ沿岸M8.2巨大地震」／4.24『ニュース』「日米首脳共同記

者会見」／4.29『BS1スペシャル』「ほんとうの中国の話をしよう～反骨の作家・余華～」（T国際独自）／5.3『ナビゲーション』「“厳しさ”でチームを変える～谷繁兼任監督の挑戦～」（T国際独自）／5.8『ニュース』「STAP論文問題“再調査せず”理化学研究所が会見」／5.15『ニュース』「安倍首相記者会見」／6.11『国会中継』「党首討論－国家基本政策委員会合同審査会－」／6.23『平成26年沖縄全戦没者追悼式』／6.24『ニュース』「安倍首相記者会見」／7.1『ニュース』「安倍首相記者会見」／7.3『ニュース』「北朝鮮拉致問題“制裁を一部解除へ”」／7.10『ニュース』「台風８号」／7.12『ニュース』「福島・岩手・宮城県に津波注意報」／7.18『ニュース』「マレーシア航空機墜落」／8.2『ニュース』「安倍首相記者会見」／8.3『ニュース』「西日本に大雨」／8.6『平成26年　広島平和記念式典』／8.9『平成26年長崎平和祈念式典』／8.9『ニュース』「台風11号」／8.11～13『被災地からの声』「宮城県山元町・岩手県宮古市・福島県飯舘村」／8.11『BS1スペシャル』「オリバー・ストーン～被爆地、そして沖縄で何を語ったか～」（T国際独自）／8.12～8.13『BS1スペシャル』「山本五十六の真実」（前編・後編）（T国際独自）／8.14～8.15『BS1スペシャル』「女たちのシベリア抑留」（Ⅰ・Ⅱ）（T国際独自）／8.15『全国戦没者追悼式』／8.20『ニュース』「広島で大規模土砂災害」／8.27『ニュース』「STAP細胞関連　記者会見」／9.3『ニュース』「第２次安倍改造内閣」／9.3『ニュース』「安倍首相記者会見」／9.11『ニュース』「北海道大雨特別警報」／9.16『ニュース』「関東で震度５弱の地震」／9.23『総理に聞く～国連総会出席を前に～』（T国際独自）／9.27『ニュース』「御嶽山噴火」／10.5『ニュース』「台風18号」／10.13『ニュース』「台風19号」／10.20『ニュース』「小渕経済産業相　松島法相　辞任」／10.31『ニュース』「日銀・追加金融緩和決定」／11.3『ガチアジア』「沸騰“アジアンエリート”～日本企業を動かす若きパワー～」（T国際独自）／11.5『ニュース』「アメリカ中間選挙開票」／11.11『ニュース』「安倍首相記者会見」／11.16『ニュース』「沖縄県知事選挙」／11.21『ニュース』「衆議院解散」／11.21『ニュース』「安倍首相記者会見」／11.22『ニュース』「長野県で震度６弱の地震」／11.24『プライムS』「立花隆　54年ぶりの再会～ヒロシマ・ナガサキから未来へ～」（T国際独自）／12.1『党首討論会』／12.2『ニュース』「第47回衆議院選挙公示」／12.7『衆院選特集』「政策を問う」／12.13『地方発　ドキュメンタリー』「田舎でこそできる子育てがある～廃校に立ち向かう集落の記録～」（T国際独自）／12.13『衆院選特集』「師走の政治決戦～党首　列島を駆ける～」／12.14『2014衆院選　開票速報』／12.15『2014衆院選　列島ドキュメント』／12.15『ニュース』「自民党総裁記者会見」／12.15『ニュース』「民主党代表記者会見」／12.19『ニュース』「STAP細胞関連記者会見」／12.23『北海道クローズアップ』「新幹線　上陸～開業まで１年半　成功のカギは～」（T国際独自）／12.23『チベット　カイラス巡礼』（T国際独自）／12.24『ニュース』「首相指名選挙」／12.24『ニュース』「第３次安倍内閣閣僚名簿発表」／12.24『NEXT　未来のために』「走れ　泣くのはやめて　難民キャンプのシリア人」／1.4『さわやか自然百景　新春特集』「四季日本の自然を感じる旅」／1.4『70年です！のど自慢　全部見せます歌いますスペシャル』（T国際独自）／1.5『総理記者会見』／1.7『ニュース』「民主党代表候補共同会見」／1.12『ドキュメンタリーWAVE』「漂流する韓国社会～セウォル号沈没事故　遺族の８か月～」（T国際独自）／1.18『ニュース』「民主党代表選挙」／1.20『ニュース』「“イスラム国”日本人殺害を警告か」／1.23『ニュース』「後藤健二さんの母親　記者会見」／1.25『ニュース』「イスラム国関連　官房長官会見」／1.26『ニュース』「イスラム国　後藤健二さんの新たな画像投稿」／2.1『ニュース』「“後藤健二さん殺害か”　動画ネットに投稿」／2.11『地方発　ドキュメンタリー』「対馬とプサン海峡を越えた花火」（T国際独自）／2.12『国会中継』「政府演説－施政方針演説－」／2.17『ニュース』「岩手沿岸に津波注意報」／2.17『ニュース』「青森県で震度５強の地震」／2.23『ニュース』「西川農相辞任」／3.8『特集　明日へ　－支えあおう－　震災から４年　つなげよう』／3.10『ニュース』「安倍首相記者会見」／3.11『東日本大震災追悼式』／3.21『地方発　ドキュメンタリー』「それでもボクらは小舟をさがす」（T国際独自）／3.24『ニュース』「フランス南部　ドイツの航空機墜落」／3.28『地方発　ドキュメンタリー』「約束の巡回タクシー～広島土砂災害　遺族たちの日々～」（T国際独自）

Ⅱ．ラジオ国際放送

14年度の外国人向け放送の放送時間は，17言語合わせて，１日当たり34時間40分。邦人向け日本

語放送の放送時間は，１日当たり24時間。外国人向け放送と邦人向け放送を合わせると，18言語で，１日延べ58時間40分の放送を実施した。

このうち，中波・FM波は８言語で，１日当たり前期は４時間45分，後期は５時間15分放送した（短波と重複する時間を除く）。また，衛星ラジオでは極東ロシア，アジア大陸，東南アジア，南西アジアに向けて中国語・タイ語など10言語で，欧州および中東・北アフリカに向けて英語・アラビア語など８言語で，また，世界ほぼ全域に向けて日本語・英語など18言語で，合わせて１日当たり前期は９時間45分，後期は９時間15分放送した（短波，中波・FM波と重複する時間を除く）。

（１）外国人向け放送

外国人向け放送では，地域の実情に合わせ，アラビア語で中東・北アフリカ地域の聴取好適時間帯に，放送枠を新設した。

ニュースは，14年度も外国人向け放送では９分と14分のニュース枠を継続し，東日本大震災からの復興，御嶽山噴火，第47回衆議院議員選挙，過激派組織ISによる日本人殺害等の国内ニュースをはじめ，世界のニュースを，日本の視点を踏まえて伝えた。なお，『英語ニュース』『スペイン語ニュース』『中国語ニュース』『ハングルニュース』『ポルトガル語ニュース』はラジオ第２でも継続放送。

『ラジオジャパンフォーカス』においては，通年で学ぶ「やさしい日本語」をはじめ，日本の科学技術の最新情報を伝える「テクノ&ビジネス」「ニッポンQ&A」「読み聞かせ文学館」「Welcome to Amazing Japan！」等のコーナーを放送した。英語放送では，リスナーとの交流を目指す『Friends around the world』をラジオ第２と同時放送した。

特集番組は，『音楽遊覧飛行ワールドワイドⅡ』『日本・ミャンマー外交関係樹立60周年記念ドキュメンタリードラマ「血の絆」』『We Love Japanese songs！ 2015』等を放送した。また，アラビア語放送60周年，スワヒリ語放送50周年の節目の年に当たり，それぞれの言語で特別番組を放送した。

（２）邦人向け放送

邦人向け放送においては，国際放送局が制作する日本語ニュースや海外安全情報に加え，国内の主要ニュース，時事番組，スポーツ中継，音楽番組，ラジオドラマなど，多彩な番組を国内と同時放送し，リアルタイムで内外の最新情報を伝えた。このほか『ちきゅうラジオ』『大相撲中継』『真打ち競演』『上方演芸会』『第65回NHK紅白歌合戦』等をラジオ第１と同時放送した。また，特集番組として『音楽遊覧飛行ワールドワイドⅡ』『日本・ミャンマー外交関係樹立60周年記念ドキュメンタリードラマ「血の絆」』『90時間ラジオ「Radio JapanでWe Love Japan～ラジオ国際放送80年～」』を制作し，海外に向けてだけでなく，日本国内でも放送した。さらに，タイの軍事クーデターに伴う情勢を受け，５月23日から６月18日まで，現地在留邦人や旅行者向けに，臨時送信による日本語の24時間放送を実施した。

Ⅲ．インターネット展開

◇概況

国際理解の促進を図るとともに放送番組を補完する観点から，インターネットを通じて，国際放送のニュース・情報番組等の提供を行っている。インターネットは，従来のテレビ，ラジオと並ぶ発信の３つの柱と位置づけて，「NHKワールドTV」や「NHKワールド・ラジオ日本」のライブストリーミングを実施するなど，有効活用を図っている。

14年度のNHKワールド・オンラインのホームページのアクセス数は１億2,135万ページビューであった。

１．テレビ関連サービス

（１）ホームページでのサービス

14年度，ホームページでは，世界中で普及しつつあるスマートフォンでの表示をより見やすくするため，ホームページ全般にわたって「スマートフォン最適化」を施した。

ニュース関連では，７月に英語記事ページと『NEWSLINE』の企画・リポートの動画ページを統合した新しい英語ニュースページを公開した。企画・リポートは動画に加え，一部はテキスト全文も新たに掲載し，内容充実を図った。また，６～７月に開催された「FIFAワールドカップ2014」の試合結果を『NEWSLINE』で取り上げたことに連動し，試合結果やハイライト写真を掲載する専用のニュースページを制作した。

番組関連では，新番組『KABUKI KOOL』の独自ホームページを新設するとともに，すべての定時番組と特集番組の内容をホームページで紹介した。また，特集編成『VIEWERS' CHOICE AWARDS 2014』（12月），『We Love Japanese songs! 2015』（１月）を実施，制作する手段として投票や投稿を行う専用のホームページを開設した。

（２）ストリーミングでのサービス

NHKワールドTVのライブストリーミング（放

送と同時のインターネット配信）は09年２月から開始した。これは放送法第20条第２項第５号に基づく業務である。14年度は，ホームページ上で提供しているNHKワールドTVのライブストリーミング画面で，放送中，番組と次番組の紹介文が表示されるように機能を改善した。

２．ラジオ関連サービス

（１）ホームページでのサービス

ラジオ日本では，テキストニュース，ニュース動画なども公開している。概要は次のとおりである。

○ニュース音声（18言語）
・ライブストリーミング（放送と同時配信）
・オンデマンドストリーミング
・ポッドキャスティング（日本語を除く）
○テキストニュース（13言語）
・アラビア語，ベンガル語，中国語，フランス語，インドネシア語，ハングル，ペルシャ語，ポルトガル語，ロシア語，スペイン語，タイ語，ウルドゥー語，ベトナム語
・災害等 緊急時は随時更新
○ニュース動画（中国語）
・１日１回（月～金）更新
○企画動画
・中国語　週２回（火・金）更新
・ポルトガル語　週１回（金）更新
○番組音声（18言語）
・ライブストリーミング（放送と同時配信）
・オンデマンドストリーミング
・公開期間は放送後１週間
・日本語は『海外安全情報』（ライブ，および一部時差／オンデマンド），『ちきゅうラジオ』（ライブ）のみ
○番組特設ページ（17言語）
・『やさしい日本語』
・『Let's Cook Japanese』（料理番組）
・『Welcome to Amazing Japan！』（旅番組）
・『We Love Japanese songs! 2015』（６言語）
・『ラジオパーソナリティーコンテスト』（中国語）
・アラビア語放送60年特集『好きな日本語で歌をつむごう！「みんなの歌」』（アラビア語）
・『みんなのエピソードでつむぐ　日本－ブラジル120年』（日本語，ポルトガル語）

（２）ストリーミングでのサービス

ラジオ日本は，放送法第20条第２項第５号に基づきライブストリーミングを提供，同２号に基づきオンデマンドで音声を提供している。

（３）その他のサービス

NHK読み上げ版携帯サイトに英語，中国語，ハングル，ポルトガル語，スペイン語でニュースを配信している。

広報・反響

Ⅰ．広　報

◇概況

NHKワールドTVについては，国内外に向けたさまざまなプロモーションも展開した。ラジオ日本では，海外でのイベント開催に加え，ネット広告も実施した。

◇PR

１．NHKワールドTV関連の主な動き

４月　３月に続きアメリカ・ニューヨークとインドネシアのネットユーザーに向けて，フェイスブック広告を実施。その結果「NHKワールド」ページのファンは９万5,000増加して17万に。
ワシントンの桜祭りに合わせて，地元の放送局と連携してプロモーションを実施した。

６月　パリで開催された「JAPAN EXPO」にブースを出展，５日間で１万人が来場した。

７月　ロンドンで開催された番組連動のプロモーションを実施し，来場者アンケートなども実施した。
英語学習誌「CNN ENGLISH EXPRESS」に10ページの特集記事を掲載。

８月　タイとフィリピンのネットユーザーに向けて，フェイスブック広告を実施。その結果「NHKワールド」ページのファンは15万増加して39万に。

９月　マレーシアのクアラルンプールで開催された盆踊り大会にブースを出展し，現地放送事業者と協力したプロモーションを実施した。

10月　『J-MELO』が放送開始から10年目を迎えるのに合わせて，司会のMay J.の共同インタビューを実施。新聞・雑誌など計６社が参加，いずれも大きく記事掲載された。

12月　フェイスブック「NHKワールド」ページで，NHKワールドTVの新幹線50年の特集番組『High Speed, Hi Safety』のPR動画を配

信したところ，広く拡散し230万人が視聴。
12月　ミャンマーで開催された日本祭りに，ブースを出展し，どーもくんが登場するさまざまなイベントを実施した。
２月　業界紙「電波タイムス」に１ページ全面の特集記事・広告を掲載。
ニューヨークのジャパンウィークにブースを出展し，番組連動のプロモーションを実施した。
３月　NHKワールドTVの新年度番組のキャスター・出演者の取材会を初めて実施。15年度番組のうち７番組から12人のキャスター・出演者が放送センターに集まり，国内マスコミを中心に新聞･雑誌など37社が参加し，計18の媒体が記事掲載した。

２．ラジオ日本関連

８月　スワヒリ語放送50周年を記念して，タンザニアのダルエスサラームで『Masayaのアフリカ音楽紀行』と『リスナーとともに』を公開収録。
12月　日本とミャンマーの外交関係樹立60周年を記念してヤンゴンで開催された「日本・ミャンマー祭り」で，ラジオドラマ『血の絆』などビルマ語放送番組のPRを行った。
２月　バンコクの「JAPAN EXPO」会場内で，タイの人気女優プレーワー・ニチャーパットさんやリスナー代表らをゲストに迎え，『やさしい日本語』の特別番組を公開収録。

（１）インターネット

スペイン語『リスナーとともに』のPR動画を放送に先駆けて公開。アナウンサーがリスナーに直接語りかけることで，番組をより身近に感じてもらうとともに，水木一郎（歌手）やどーもくんなど特別ゲストをスタジオに招いたり，リスナーがネット中継で参加するなど，動画ならではの双方向の演出を試みた。

スワヒリ語『Masayaのアフリカ音楽紀行』PR動画を放送に先駆けて公開。ケニアに10年滞在し，伝統打楽器を学んだパーカッショニストの大西匡哉さん自身が，現地で撮影した映像を使い，アフリカで増えつつあるネット・スマートフォンユーザー向けに広報活動を行った。

（２）イベント開催

NHKワールド・ラジオ日本の認知度向上と新規リスナー獲得のため，国交樹立や放送開始○周年など，節目の年に当たる国や地域を中心に，番組関連のイベントを開催した。

放送開始50周年を迎えたスワヒリ語放送では，８月にダルエスサラームで「リスナーの集い」を開催。タンザニア放送協会のニュース番組（テレビ，ラジオ）などで紹介された。12月にはNHKワールドTVとラジオ日本が合同で，「日本・ミャンマー祭り」の期間中，ヤンゴン市内各所でPR活動を行った。２月，タイの首都バンコクで『やさしい日本語』の特別番組を公開収録した際には，国際放送PRキャラクターとしてどーもくんも参加した。

イベントの様子は後日，それぞれの言語放送の『リスナーとともに』などの枠で特集として放送された。

３．NHKワールド全般　紙媒体等の展開

（１）紙媒体

NHKワールドの役割やサービス内容を紹介する「ガイドブック（英語・日本語）」，NHKワールドTVの番組内容を紹介するパンフレット，ラジオ日本の周波数表，在外邦人向けの「かんたんガイド」，ラジオ日本の番組内容などを紹介するチラシ（17言語）に加えて，NHKワールドTVを紹介する二つ折りチラシ（英語・日本語）を新たに発行，国内外の政府機関・民間企業・日本人会などに送付し，NHKワールドのPRに努めた。なお，すべての印刷物データはウェブサイトにて公開し，ダウンロードできる。

（２）「第33回NHKワールドカレンダー」フォトコンテスト

13年度に引き続きNHKサービスセンターと共催した。開催告知のPRスポットは総合テレビなどで編成され，国内でのNHKワールドの認知度向上に寄与。14年度には，3,523点の応募があり，28点を受賞作品に選定した。受賞作品はNHKサービスセンターが制作する壁掛けカレンダーと卓上カレンダーのほか，受信報告に答えるためのベリカードなどに使用した。カレンダーは，各国大使館・領事館，海外の放送局，日系人協会，日本人学校などに配布し，NHKワールドのPRを行った。

（３）NHK出版語学テキストへの広告出稿

14年３月，国内の外国語学習者を対象にしたPRとして，NHK語学講座テキストの15年度４月号計23誌に広告を出稿した（一部は５月号以降に掲載）。

（４）国内向けポスター制作・設置

国内視聴者へのPRを図るため，NHKワールドTVの番組に出演するMay J.とすみれのポスター

をそれぞれ制作し，局内外で掲示し活用した。新年度に合わせて，３月下旬からは，スタジオパークと渋谷駅を結ぶバスや，放送センター内のデジタルサイネージで掲示。

（５）「日本へのラブレター～世界から届いた5000通のメッセージ～」出版

東日本大震災以降「NHKワールド・ラジオ日本」宛てに世界50以上の国・地域から届いた5,000通余りの手紙やメールを書籍化。「私はやっぱり日本が好きです」「復興に向けて頑張る皆さんの姿は，私の励みになっています」など，その一通一通に，日本を気遣い大切に思う温かな気持ちが込められている。15年２月発行。

◇モニター

14年12月現在，テレビ番組モニター42か国117人，ラジオ番組モニター28か国51人，ラジオ技術モニター41か国52人という体制である。

Ⅱ．反　響

◇反響の周知と活用

（１）投書数

NHKワールド・ラジオ日本への14年度の郵送・Eメール・SMS（ショートメッセージサービス）による投書数は４万4,505件で，13年度と比べて，2,653件の増加となった。

NHKワールドTVへの14年度の海外からのEメール等での投書数は7,186件となり，13年度と比べて687件の減少となった。

（２）反響の活用

「NHKワールドTV宛　Eメールウイークリーリポート」「テレビ番組モニター反響メモ」を週１回，「NHKワールド・ラジオ日本投書概況」「ラジオ日本モニター報告」「NHKワールドTV海外番組モニター報告&反響」を月１回まとめ，国際放送局の各番組担当者にフィードバックして，放送の質のさらなる向上に役立てた。

技術・施設

Ⅰ．テレビの送受信

NHKワールドTVは，英語による「外国人向けテレビ国際放送」で，09年２月に専用スタジオを設け24時間毎正時，ニュースを放送している。09年12月には，標準画質の放送に加え，ハイビジョンによる放送も開始した。放送はノンスクランブル（無料）で，インテルサット社の３つのCバンド衛星を使い，ほぼ全世界をカバーしている。受信には直径2.5メートル程度のパラボラアンテナが必要なため，小型のアンテナで受信できる衛星（Kuバンド）や地域のCATV，IPTVなどを通じて，より簡便に視聴できるよう受信環境の整備を進めている。14年度末には，27機の衛星でおよそ150か国のエリアをカバーし，約２億8,400万世帯で視聴が可能となった。

NHKワールド・プレミアムは，NHKワールドTVと同じ３つのCバンド衛星で，海外のCATVや衛星放送局などの放送事業者にNHKの番組を有償で配信し，各事業者が提供する日本人向けのテレビチャンネルである。

テレビジャパンは，北米NCMA社（NHK Cosmomedia America, Inc. ニューヨーク），JSTVは欧州NCME社（NHK Cosmomedia Europe Ltd. ロンドン）が，衛星（Kuバンド）等を使って91年から実施している有料の邦人向けサービスである。NHKや民放の番組にスクランブルをかけて放送している。

NHKワールド・プレミアムとテレビジャパン，JSTVを使って，１日およそ５時間，ノンスクランブルの「邦人向けテレビ国際放送」を実施している。

Ⅱ．ラジオの送信

14年度も，NHKワールド・ラジオ日本は，放送対象地域のメディア状況に即した，一層効率的で効果的な送信体制への移行を進めた。短波については，14年度前期，日本の八俣送信所と12の海外中継局から送信していた体制を，14年度後期には八俣と11の海外中継局とした。また，中波・FM波による中継放送を９つの国と地域で行った。

○八俣送信所

送信機６台（300kW：５台，100kW：１台），アンテナ18式（カーテンアンテナ：15式，水平LPアンテナ：３式），25方向で送信。ラジオ国際放送を，１日44時間40分送信した。

○海外中継

（１）イギリス中継放送

92年７月１日，スケルトン送信所などの500kW送信機などを借用し放送開始。14年度は，前期，欧州向けに１日30分の送信を実施した。

（２）シンガポール中継放送

96年４月１日，クランジ送信所の250kW送信

機などを借用し放送開始。14年度は，東南アジアおよび南西アジア向けに，１日４時間15分の送信を実施した。

（３）アセンション中継放送

95年４月１日，アセンション中継局（大西洋・英領アセンション島）の250kW送信機などを借用し放送開始。14年度は南米向けに，１日２時間の送信を実施した。

（４）ダバヤ中継放送

03年４月１日，ダバヤ送信所（アラブ首長国連邦）の500kW送信機などを借用し放送開始。14年度前期は，南西アジア向けに１日45分，後期は欧州および南西アジア向けに１時間15分の送信を実施した。

（５）フランス中継放送

08年３月30日，イスーダン送信所の500kW送信機を借用し放送開始。14年度は，中東・北アフリカおよびアフリカ（中部，西部，南部）向けに１日10時間の送信を実施した。

（６）ドイツ中継放送

08年３月30日，ヴェルタハタル送信所などの500kW送信機などを借用し放送開始。14年度は，中東・北アフリカ向けに１日４時間の送信を実施した。

（７）ウズベキスタン中継放送

09年３月29日，タシケント送信所の100kW送信機を借用し放送開始。14年度は，中東・北アフリカ，南西アジア向けに，１日１時間30分の送信を実施した。

（８）リトアニア中継放送

10年３月28日，シトクナイ送信所の100kW送信機（短波）を，11年３月27日には500kW送信機など（中波）を借用し放送開始。14年度は，欧州向けに，短波は１日30分，中波は１日１時間の送信を実施した。

（９）マダガスカル中継放送

10年３月28日，マダガスカル送信所の250kW送信機を借用し放送開始。14年度は，アフリカ（東部，中部，西部）および南西アジア向けに１日３時間の送信を実施した。

（10）パラオ中継放送

12年３月25日，パラオ送信所の100kW送信機を借用し放送開始。14年度，東南アジア向けに１日２時間の送信を実施した。

（11）アメリカ中継放送

12年８月12日，サイプレスクリーク送信所の250kW送信機を借用し放送開始。14年３月30日，オキチョービー送信所の100kW送信機を借用し放送開始。14年度は，中米向けに１日30分，南米向けに１日２時間の送信を実施した。

（12）南アフリカ中継放送

13年４月１日，メイヤートン送信所の250kW送信機を借用し放送開始。14年度，アフリカ（中部）向けに１日30分の送信を実施した。

（13）インドネシア中継放送

09年３月29日，インドネシアのFMラジオ局の放送時間を借用し放送開始。14年度は，12月31日まで首都ジャカルタなど計36都市で１日45分の送信を実施した。１月１日からジャカルタを除く35都市で実施した。

（14）ヨルダン川西岸中継放送

09年４月26日，パレスチナ自治区ヨルダン川西岸地区のFMラジオ局の放送時間を借用し放送開始。14年度は，ラマラなど計４都市で１日30分の送信を実施した。

（15）アフガニスタン中継放送

10年３月28日，アフガニスタンのFMラジオ局の放送時間を借用し放送開始。14年度は，カブール，ヘラートの２都市で１日30分の送信を実施した。

（16）バングラデシュ中継放送

10年10月31日，バングラデシュ国営FMラジオ局の放送時間を借用し放送開始。14年度は，首都ダッカなど計７都市で１日45分の送信を実施した。

（17）タンザニア中継放送

12年３月25日，タンザニア放送協会（TBC）のFMラジオ局の放送時間を借用し放送開始。14年度は，ダルエスサラームなど計23都市で１日30分の送信を実施した。

（18）イラク中継放送

15年３月21日，イラクのFMラジオ局の放送時間を借用し放送開始。14年度は，バグダッドなど計５都市で１日30分の送信を実施した。

（19）ブラジル中継放送

13年４月１日，ブラジルの中波・FMラジオ局の放送時間を借用し放送開始。14年度は，サンパウロなど計３都市で１日30分の送信を実施した。

（20）モスクワ中継放送

09年３月29日，ロシア国営送信会社の10kW送信機（中波）を借用し放送開始。14年度は，モスクワ市および周辺地域向けに１日１時間の送信を実施した。

（21）タジキスタン中継放送

11年３月27日，国営タジキスタン送信会社の300kW送信機（中波）を借用し放送開始。14年度は，欧州，中東・北アフリカおよび南西アジア向けに１日１時間45分の送信を実施した。